

DXコース 修了制作

適正な経営管理・推進体制の検討 匠 Method を通じた価値分析

Sdx-25

阿比留 将吾

課題

- ◎ 多角的な事業を経営する会社の予算管理
- ・企業が大きくなる程、組織や目標は細分化され会社としての指標・目標が見えづらくなる
- ・情報が分散されすぎてしまい、情報の集約が困難になる事
- ・ビジネス・取組が多岐に渡り、それに併せて管理システムも複雑になってしまう事

手法・ツールの適用による解決

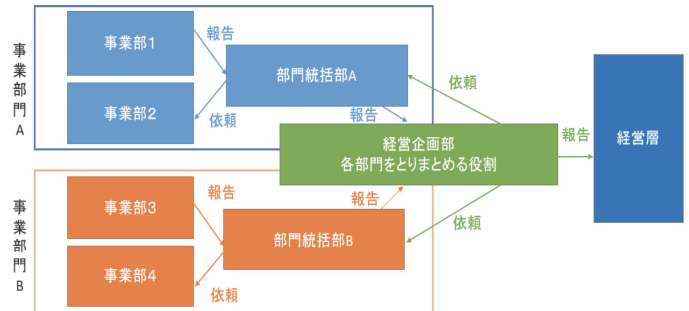
検討状況	GGM+S	匠method	現状
ビジョンの明確さ	YES ○ NO	○	○
ロードマップが明確	YES ○ NO	○	○
体制がある	YES ○ NO	○	○
スケジュールがある	YES ○ NO	○	○
目標と戦略が明確	YES ○ NO	○	○

- ・DXにおける開発工程の「構想」段階
- ・DXコースで学んだ「匠Method」にて価値分析を図り、理想的な管理モデルを策定する

検証におけるポイント・狙い

課題	検証ポイント
現状の課題を明確に整理できておらず、新構想が誰に対して、どんな価値をもたらせるのかが、曖昧	匠methodにより課題を整理すると共に価値の対象を明確にする
このプロジェクトに関する意義やビジョンが定まっておらず、論理的に説明できない	匠methodにより意義やビジョンを明らかにする。

改善したい管理モデル(ToBe)



◎ 匠Methodを通じて、「構想」段階における課題を解決したい

◎ 「指示」・「命令」・「部分最適」を主体とした業務フロー

評価

- ・匠Methodにより、構想の為の5つのモデルを作成。
- ⇒モデル化を通じて、予算管理という業務は、関連当事者全体が**一体感を持つこと・情報を連携しやすし仕組みづくり**が最重要項目だと捉える事ができた。
- また、働く仲間が同じ「**目標**」を共有し合い、それを常に可視化できている状態である事で、管理の質は高まると考えた。

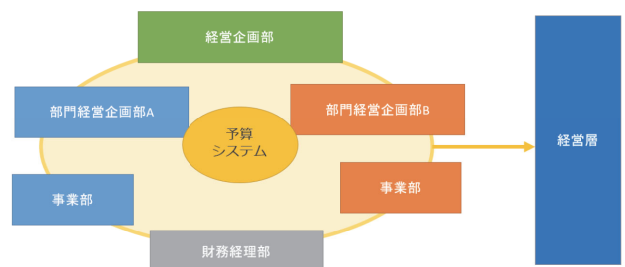
課題	測定結果
現状の課題を明確に整理できておらず、新構想に誰に対して、どんな価値をもたらせるのかが、曖昧	現状のプロジェクトの課題の本質は何で、誰に何を実行する事でどういった価値が提供できるのかを考える事ができた。
このプロジェクトに関する意義やビジョンが定まっておらず、論理的に説明できない	プロジェクトを進める意義を言語化できた。なぜ行うべきなのか、相手の感情に伝える言葉等も考える事で、意・知・情の3視点より考察する事ができた。

◎ 「構想」のやり方を学び、課題を解決できた

匠Methodの優位性

- ◎ 「構想」フェイズで、プロジェクト起案者依存にならない事
- ◎ 人の「心」に訴えかける視点が入っている事
- ◎ ステークホルダーを重視し、全体幸福度の最大化を図る視点
- ⇒ 昨今求められている**サステナビリティの考え方との親和性の高さ**を感じた。

理想的な管理モデル(Asis)



◎ 「一体感」・「輪」・「全体最適」を主体とした業務フロー